

事前アンケートから導き出された論点整理表

東三河スタートアップ・サテライト支援拠点検討プロジェクトチーム第1回会議の開催にあたり、会議の議論を効果的に進めるため、チーム員5機関（企業4、大学1）及び東三河8市町村、合計13機関を対象にアンケート調査を実施。

本調査結果から、今後のPTやWGの取組、役割など、方向性を検討していくための論点整理表を作成した。

サテライト支援拠点に関するアンケート結果（2020年5月実施）

〔対象〕 13 機関（企業 4、大学 1、市町村 8）

1 貴機関の取組においてステーション A i の機能及び県の事業で関心があるもの（複数選択可）

	機 能 ・ 事 業	選択数（最大 13）
a	ステーション A i 入居スタートアップ等との交流（ビジネスマッチング等）機能	6
b	スタートアップ支援プログラム提供事業 ・ あいちスタートアップキャンプ（新しいアイデアを持った起業家を発掘・養成） ・ アクセラレータープログラム（スタートアップを対象にメンタリング等の集中支援） ・ スタートアップ連携促進事業（首都圏スタートアップと県内企業の事業提携支援）	9
c	各種イベント（ビジネスマッチングイベント、ピッチイベント等）開催事業	8
d	テック・ラボ（試作品作製・評価等）機能	3
e	あいちスタートアップ創業支援事業（創業支援金の支給、創業時の伴走支援）	9
f	外国人創業活動促進事業（在留資格要件の緩和、創業時の経営支援）	1
g	行政支援窓口（開業に係る申請書等の作成支援、相談対応）	3
h	海外連携事業（海外エコシステム先進地域を代表する機関との連携事業） ・ 海外スタートアップとの交流（ビジネスマッチング等）機能 ・ 海外支援機関プログラム提供事業、海外展開機能（海外進出支援）	4

〔主な選択理由等〕

- ① 新規事業の創造にはあらゆるサポートが必要（選択：a・b・c・e・g・h）
- ② スタートアップ起業家の事業を早く軌道に乗せるための支援を中心に実施したい（選択：a・c・d）
- ③ 重複する部分についてはしっかり棲み分けを考え、相乗効果を得られる体制にする必要（選択：a～h すべて）
- ④ 当施設にも試作品製作等が行えるものづくり拠点を有しているため、連携イベント等が期待できる（選択：d）
- ⑤ 事業が長く継続し成長していくため、創業後の支援も重要（選択：a・c・e・h）

2 東三河地域のサテライトに求められる機能、役割（論点1）

[主なもの]

- ① スタートアップと地元企業が共にビジネス・商品開発ができる「場」としての機能
- ② 開発した商品の改善の機会になる「実証実験・評価」の「機会」を提供する機能
- ③ スタートアップの事業が早く軌道に乗るよう、サービスのアーリーアダプターになりうる地元企業との引き合わせと関係強化の「場」としての機能
- ④ 東三河地域の強みに最先端の技術（スタートアップ）を掛け合わせる支援機能
- ⑤ 奥三河も含めた東三河地域全域の課題を解決できるスタートアップを育成・誘致する機能
- ⑥ 地域の未来、課題、やるべきことについて、地域の人々が議論し、新規事業を生み出す機運を高める機能
- ⑦ 起業家になるキャリアがあることを中学生のうちから検討できるようなキャリア開発機能
- ⑧ 当地域は、1のうち、a、b、c、f、hの機能が乏しいため、その機能の付加

3 東三河地域のスタートアップ・エコシステム形成に必要な体制や取組、東三河地域の将来像（論点2）

[主なもの]

- ① 本プロジェクト参加メンバーの「エコシステム」の認識・景色合わせが必要。各プレイヤーが保持するリソースの明確化が第一歩の取組
- ② 短期的な目標として、ステーションA i とサテライトとの連携による有力な起業家（成功事例）の創出。成功事例によりスタートアップ、人を集積
- ③ 容易にアクセス可能な地域に根差したベンチャーキャピタル、エンジェル投資家の確立
- ④ 地域において世界中のスタートアップとも連携できるネットワークの構築
- ⑤ 世界に発信できる広報戦略・機能
- ⑥ 経理／財務、法務、IT等のサポート機能
- ⑦ インキュベーションプログラム、ピッチイベントなどの日常的な実施
- ⑧ 既存の支援機関の良さを活かしつつ、東三河地域に足りない部分について、県の施策・支援で補っていくなど、各機関と県の連携体制の構築
- ⑨ 新たなサプライチェーン、バリューチェーンを創造する取組を後押しする体制の構築
- ⑩ 起業が当たり前の文化になっている
- ⑪ イノベーターが必要な人材にすぐにアクセスできる産学官が連携したコミュニティがある
- ⑫ 当地域において起業した人が、地域にとどまるのではなく、ステーションA i や愛知県の施策も活用しながら、全国で活躍するように育ち、将来的に当地域の起業家を育成するようなエコシステム形成

4 エコシステムの形成機運の醸成のために必要な取組（論点3）

[主なもの]

- ① エッジのある、地域をブランディングする取組みにすべき。東三河地域においては「農」「食」でグランドデザインを進め、2つないし3つの取組みテーマを決めて実証実験的にまず取組を始める進め方が適切
- ② 地域のスタートとなるイノベーターの創出
- ③ 企業内起業家、学生起業家を育成する仕組
- ④ インキュベーションプログラム、ピッチイベントなどの日常的な実施
- ⑤ 東三河地域で起業した人、起業を目指している人と都市部のスタートアップとの連携・交流の機会を創出する取組（相互交流イベント等）
- ⑥ 当地域の企業において、オープンイノベーションや社内起業家の育成にまで関心のある企業はまだ少ないため、起業予備軍創出に向けたイントラプレナーを創出・育成する取組

5 東三河地域の特性や強みを生かしたサテライト支援拠点にふさわしいテーマ・分野（論点4）

- ① 農業分野、食分野（多数の本プロジェクトチーム参加メンバーが提示）
「園芸をベースに商工観医福などと連携して、コロナ禍の新たなビジネスモデルの創造」といった意見あり
- ② その他の分野として、スマートファクトリー分野、高齢化社会・介護分野、子育て支援分野、健康（スポーツ）分野、衛星データ利活用による宇宙ビジネス分野、IT産業分野など
- ③ また、「様々な特性のイノベーターを発掘したいため、テーマ・分野の限定が必要か検討すべき。」といった意見あり